



・発行・
京都障害者
スポーツ
振興会

題字 芝田 徳造

娘たちの挑戦(7)

上京区在住 北 永正 喬

長女のまいは、今年特別支援学校小学部6年生になり、体格もすっかり大きくなりました。本人は緩やかに大きくなっていきますが、学校など周囲がその何倍もの速さで変化しているのに、それについて行くのに精一杯です。しかし、自分の体を傷付けてパニックを起こしながらも、必死で前に進むうとしていきます。その姿を見るに忍びないこともしばしばです。親として、周囲を叱咤激励しながら表だって手助けしたい気持ちと、見えないところで黙々と変化に処するための御膳立てしなればいけない状況と格闘しながら、まいの居場所を作り出すために何とか乗り越えようとしています。妹のたかこは、今年小学4年生になり、引き続き青葉寮で頑張っています。思ったこと、感じたことを、直接的な表現で伝え

ることが出来るようになった反面、話し方があまりにも直接的であることから周囲に誤解を生むこともあり、また、自分の意思を上手く表現するのに時間が掛かることから、現在はコミュニケーションの上達に向けて、主治医の先生や青葉寮の先生と一緒に頑張っています。

姉妹2人とも、体格など成長が進んでいる半面、インフルエンザや風邪など体調を崩しやすくなり、水泳のつどいを休むこともあり、カレンダールの毎月第三日曜日には伏見港公園の写真を貼り付け、お気に入りのかばんに水泳セットを詰め込んでつどいの日が来るのを待っています。彼女たちの中では、水泳のつどいが生活のリズムを整えるために欠かせない大切なものであるのかも知れません。受付

を済ませたら、いつものようにプールサイドで準備体操をこなし、プールに入って泳ぐいつもの流れを安心してこなししている様子であり、時には泳ぎの上達が進んでいるたかこが、姉の手を引いて笑顔で泳いでいることもしばしばです。最近では、補助具を使わずに時間を掛けて25メートルを泳ぐ姿を見て、初めてプールに入った時に比べて見違えるほどおきくなったんだと、姉が初めて水泳のつどいに現れて十年近く時間が経っているのに、十年という期間が短く感じております。それだけ、親もそうですし、それ以上にスタッフ（私も一応その一員のつもりですが）もプールの楽しさを熱心に伝え続けた途中経過なんだと思いました。

2人を見て、十年って長いようで短いけれど、改めてどんな子どもであつても、大切に育てていけば、癖はあるけど人並みに成長してくるんだと痛感しました。二人の子どもたちは、これから中学部・高等部と大人になるためのハードルを乗り越える時期に差し掛かっています。親としてはまだまだ乗り越えなければいけないことがこれからもあることは覚悟して、さりげなく支えていきたいと思いましたが、

水泳のつどいをきつかけに、妹のたかこは、水から飛躍して船舶に関係することに興味を持ち始め、休日には親の手を引いて、神戸港や大阪港で貨物船や貨客船が停泊している姿を見たいとせがむようになり、船の姿だけではなく、海面の色、海から見る島々の美しさに感動していました。親が

番面食らったのは、客室にある救命胴衣を必ず見つけて、「何かあつたら泳いで助かるから。」と、プロの航海士がいる前で、大声で自信ありげに姉に話しかけているのです。恥ずかしい反面、自分に自信を持つている証なんだと思えました。姉もそんな妹に影響されて、カメラで波などの海面を撮影して、「上手く撮れたでしょう。」と母親に見せていることもありました。自閉症というハンディーを抱えているのに、人並みに興味や趣味が増えることなど、思いもよらなかつたことでもあります。

行事予定	4月	10(火)	丹波障害者のスポーツのつどい	丹波自然運動公園	来月のつどいは 5 / 13 第2日曜日
		14(土)	フライングディスク講習会	京都市障害者スポーツセンター	
			スタッフ全体会	京都市障害者スポーツセンター	
		15(日)	241回障害者水泳のつどい	伏見港公園プール	
		21(土)	京都障害者フライングディスク大会	京都府立体育館	
	5月	22(日)	城陽障害者スポーツのつどい	サン・アビリティーズ城陽	
		8(火)	丹波障害者のスポーツのつどい	丹波自然運動公園	
		12(土)	第46回スポーツレクリエーションフェスティバル	丹波自然運動公園	
		13(日)	第21回障害者シンクロナイズド	京都市障害者スポーツセンター	
			スイミングフェスティバル		
京都障害者スポーツ振興会ホームページ				TEL/FAX075-712-7010	
http://web.kyoto-inet.or.jp/people/spo-shin/				(2012年3月18日に一部更新)	

京都マラソンに参加して

京都市右京区 藤重純也

3月11日、約15,000人のランナーが参加の京都マラソン2012が京都市内で開催されました。

東日本大震災復興支援と京都・日本の活性化をメインコンセプトとした大会で、絆のキーワードを胸に、すべての参加者の思いが一つになってコースを走りました。

京都で開催されるマラソン大会ということで、数年前まで開催されていた京都シティーハーフマラソンを凌ぐ大会となることは予想できませんでした。

京都シティーハーフマラソンでも車いす部門の参加枠はあったのですが、後発の一般ランナーに吸収されることによる事故などが懸念され、参加が認められませんでした。事前にコースを下見し、「これなら行ける」と思い、車いす駅伝チームの坂野監督や振興会からも実行委員に働きかけをいただきましたが、吸収される危険性が高い私は最後まで参加が認められることはあ

りませんでした。参加側ではなく見る側での京都シティーハーフはあまり思い出もなく、なんとなく終わってしまいました。

そこへ今回の京都マラソン開催の話聞き、参加可否の確認をしたところ了承されたとのこと。気持ちは一気に盛り上がりました。

何度もコースを下見し、速度が出ない場所、出せるポイントを設定しました。

5分後にスタートする一般ランナーの速度から、自分の速度設定もしました。これらをもとに一般ランナーに吸収されることはないかと確信しての当日のレース参加となりました。

気合十分での会場入り。さすがに参加規模が違い、競技場が波打つほどの雰囲気圧倒されました。

これだけの人に恰好悪いところは見せられないと思います、自然と気合が入ります。

しかしアップの時点ではかなりリラックスできている、いい具合の緊張感とのバランスで何とも言えない気持ち良さがありました。

今回参加した目的は、一

般ランナーに吸収された際、それほど危険ではないということを見てもらいたかったということがあります。過去に数回、一般ランナーと走る大会に参加しましたが特に危ない感じはなく、一般の選手達は器用に一瞬で抜いて行きます。

と言いながらも実は今回も吸収の心配はありましたが、坂野監督より拡声器で後方から随時状況を教えてもらい、またまったく途切れない桁違いに多い沿道からの声援をもらい、結果吸収されることなく、ほぼ終始、イメージ通りに走ることができました。

6.1kmの距離でトップの西原選手とはゴールで10分の差。実はこれが速い選手や遅い選手がいる車いすマラソンの姿であり、色々な人にそこを見てもらうことができたと思います。

みんなが自分の実力の中で精一杯走っているけれど、障害の程度でそれだけの差がでるのが面白いところですよ。

走っているときは正直しんどいけど、その時は本当に嫌なことを忘れていられるし、ゴール後の充実

感は一度味わうと何度も味わいたくなつて、しんどいけど、またレースを走ります。この繰り返しを10年以上続けています。今回は特にいるんな人の力と支えによって走れたことを実感できた大会となりました。事務局のご理解のもと、次回も参加できるのであれば是非、参加したいと思えます。



京都マラソン2012 車いす競技の部記録

平成24年3月11日 距離6.1キロ 選手10名

西原宏明(南区)

13分35秒

寒川 進(西京区)

14分46秒

- 澤村聡一(枚方市) 14分59秒
- 用田竹司(伏見区) 15分07秒
- 真下和也(綾部市) 15分18秒
- 中田達也(綾部市) 17分10秒
- 池田康広(西京区) 17分12秒
- 佐野純一郎(上京区) 17分55秒
- 和田直也(西京区) 19分52秒
- 藤重純也(右京区) 23分14秒

受賞

おめでとうございます

日本障害者スポーツ協会 平成23年度特別功労賞

森田美千代

